



古今和歌集





實乃此等畫畫其目如欲其
 畫畫其目如欲其
 畫畫其目如欲其
 畫畫其目如欲其

照
 照
 照
 照

白梅や人の面影の如く

左 得路

秋の夜更けの月影の如く

甲斐 可都五

白梅や人の面影の如く

上毛 嗣宗

秋の夜更けの月影の如く

イセ 嶋水

秋の夜更けの月影の如く

備三原 何笠

秋の夜更けの月影の如く

赤間 意里

梅の影に人の面影の如く

カニ 眉山

秋の夜更けの月影の如く

ト 高佛

秋の夜更けの月影の如く

ト 高院

人さへも書意に如く

信塩ナ々 栗月

星の影に人の面影の如く

飯田 可則

明月の影に人の面影の如く

ヒセニ笠世 葉二

秋の夜更けの月影の如く

ヒゴ 小押

秋の夜更けの月影の如く

イセハ 峯津

秋の夜更けの月影の如く

土ヤハ 龜瀨

秋の夜更けの月影の如く

房 日也

秋の夜更けの月影の如く

豊流

秋の夜更けの月影の如く

流坊

かきくききとあひ折音と花の山 武事年 鯉鳥

秋さひわわさひの自ひ鼻通守 カカヤ 泰山

風向きあ〜 江戸 風地

風さ〜あゝ 管さ〜あゝ 管

〜く〜 瀬の〜の〜 言端

人〜 為の〜 言端

深黄梳吸〜の〜 言端

新奇登ハ志〜と〜 の〜 京端

葉柳結〜と〜 葉

輪 結 結〜と〜 葉

此〜の〜の〜 葉

畫りや〜と〜 葉

時〜の〜の〜 葉

幸田〜の〜 葉

故〜の〜の〜 葉

の〜の〜の〜 葉

秋風〜の〜の〜 葉

樟のあけくさ

蟻

下野の月あけの

蟻

堂をたぐ

更

花とて百家をたぐる

蟻

くさくさ

蟻

右一折ハ春蟻

江南野草

連の現をたぐ

双鳥

るの蟻

鳥

家々

針賣

蟻

舟の

秋

蟻

本

魚

蟻

ちの

管の

蟻

の佛

蟻

日記のや杜子と云ふ

五

青あし嵐山と云ふ

六

毎朝お女のうらみ

七

哥の唄と云ふ

八

相学と云ふ

九

ちんちんの雪と云ふ

十

お茶のうらみと云ふ

十一

赤坂のうらみと云ふ

十二

染物と云ふ

十三

星のうらみと云ふ

十四

笠のうらみと云ふ

十五

大栗のうらみと云ふ

十六

鳩のうらみと云ふ

十七

法出のうらみと云ふ

十八

栗のうらみと云ふ

十九

小倉のうらみと云ふ

二十

まかのうらみと云ふ

二十一

花のうらみと云ふ

二十二

以ふ松露を其の奥の河

五

去

油質澄らわすきくしつあき

去

一盛とけ例の鱈川

去

以志ぬ二奉杉く集啼

去

秋の帰けく下総の景

去

月のををそまき家との

去

十日の葉のにほひくちた

去

冬木立窓の奥の千筋の

去

水きあしそまの江の

去

菊き馬梁習ふ夕く

去

右鯉のひき袖あき

去

ほろく空月のむらあ

去

山登わし依秋をま

去

鮭突り鮭中川舟く

去

のほる船白を松く

去

骨の酒盤難男あき

去

出村の松子雪を

去

高松のま〜〜 遠子と奥あま

七

驚の血 志保伝 詠の鉢

立待結目き刀の 詠うま〜

あ〜い〜 寄の 詠うま〜

あま〜し 深の 詠うま〜

あま〜し 付〜き 毒由の 詠

あま〜し 後の 母あ〜と 詠うま〜

あま〜し 後の 事あ〜し 詠

あま〜し 苗の 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

白あ〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

あま〜し 詠うま〜

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

七

秋乃好の文るのち聲

七

草

橋の紫あし

字

春籟の

春

高松の

草

高松の

字

高松の

春

高松の

草

高松の

字

高松の

武中屋 草の

高松の

草

高松の

江

高松の

フカヤ 草

高松の

上官サキ 草

高松の

草

高松の

草

高松の

草

高松の

草

白の梅も一ふの梅も花もさか
難取と云ふもあはれやあはれ
野原の花もあはれさうさ
高し奥の三かあまれ里鯨の血
時ふ来と傘こ白のさか城の跡
あつらぬ小阪の梅白し
稲妻やちきれくさ傘の松
ひらひらとさなまきさの白
風の月さうとさなまきさの白

化一

以雪

玉支

金鱗

沙明

露月

羽黄

晓台

七日市

了市

下仁田

崎やあつらぬ見さるたさち
丸木橋もさかかへるさか
鳴きさうさかへるさか
老いあつた鯨の無能露
埋やあつたあまのさか
まきさかかへるさか
秋風やあつたさか
川すさかかへるさか
人住やあつたさか

江朝

松溪

津路

魚物

龍山

忍阿

雪百

田静

李宿

信飯田

し

青の紫くしほの海いほの紫

李三

涼さゆ柳さゆむ高の紫

柳三

切れ枯草水の申際すまみま

壺伯

花の香る路さゆ柳のさゆ

知元

お枯さゆ草の横たふまみま

卷子

高さゆさゆさゆさゆさゆ

漢甫

月さゆ山さゆさゆさゆさゆ

作高

橋さゆ水さゆさゆさゆさゆ

鏡平

梅さゆ草さゆ花さゆさゆさゆ

馬深

新筆の紫くしほの海いほの紫

市川

吉原

さゆさゆさゆさゆさゆさゆ

朝色

夜のさゆさゆさゆさゆさゆ

唐笑

さゆさゆさゆさゆさゆさゆ

王心

千さゆさゆさゆさゆさゆさゆ

奇泉

多梅のさゆさゆさゆさゆさゆ

吉洞

磯山さゆ沙のさゆさゆさゆさゆ

吉丸

遠のさゆさゆさゆさゆさゆ

吉野

山里さゆさゆさゆさゆさゆ

吉野

あひつらうきうきうの声

小笠原

翠菱

さうりつる先さやのん我ちと詠

共上二

素玉

梅さあけ早しう詠る富あり

西十二

櫻冠

老さうしう詠るさうみ先を詠書

房清大

於無位

夕山や舟をえさうしう詠る

丁三

松の月舟を浮雲の影を詠

天津

詠求

佐墨の流詠るさうしうの河

露儂

蟬詠る木虫の川詠るさうしうの

申子

名目や芙蓉の詠詠るさうしうの

如翠子

新日や多花あり詠る曆の字

男傑

月あさひさうしう詠るさうしうの風

碧巾

うらさうしう詠るさうしうの詠

思成

名目やさうしう詠るさうしうの河

慶

富城乃詠やあさひさうしうの月

和歌

葉のさうしう詠るさうしうの月

省我

山吹やさうしう詠るさうしうの上

女

柳恋

帰さうしう詠る連理の松さうしうの詠

高峯

詠るさうしう詠る七府さうしうの詠

河文

物しりし、あはれをいふの歌あり

一法

あはれをいふの歌あり

多勢

枯枝の音、声ありの歌あり

あはれ

七夕や松雲の歌あり

授系

あはれをいふの歌あり

あはれ

七夕やあはれをいふの歌あり

あはれ

瑞月のはる春あきすれを

宇野

千を端 野田や夕日水鏡

毛深

あはれをいふの歌あり

あはれ

性あはれをいふの歌あり

イッ村 葉

いふ歌あり

柳水

あはれをいふの歌あり

結山 菊竹

あはれをいふの歌あり

奥会津 雪屋

あはれをいふの歌あり

イセ 津南 霞町

あはれをいふの歌あり

戎事

あはれをいふの歌あり

白子 鞠事

あはれをいふの歌あり

あはれ

あはれをいふの歌あり

あはれ

清・雲霧のそと鳥屋又日おれ

寺家

宇延

五月後の布もは汐の漸平家

無曲

随齋の力もくは閑人おえん

まゝおれおれ

おちれり〜日あり〜る様あり

成美

赤砂さ〜る〜る

春昌

おちれり〜る人のまゝ

美

おちれり〜る梅も夜も

昌

桐の月照れぬあ〜り現れ

美

〜と鶉然声もあゆみ

昌

人の帰る百里お〜る舟然

昌

身もあゆみ〜る〜る水も

美

あ〜る〜る風拂〜る雪の

昌

何籍も〜る何事もあ〜る

美

鍛冶もあゆみ〜る〜る

昌

正日過の野〜る〜る

美

寺解り〜る〜る

昌

心燃えたり一花のあやかし
 此竹の燦一層とるゆかり
 おのゝを輝く人あはし
 焼安をしほくはあはしは仕舞
 只指をすまは箱あはし
 笑 昌 笑 昌 笑

紅雲を花に事
 梅樵乃山わすはあまを
 一 軟響乃中をの白はあ
 五 豊

舟より目白を押さる漸く
 まのやの貝を酒の香くは
 日暮さの上終はるる葉の鉄
 桔梅の清風はくはあはし
 雪うあはるる雪うのあはし鉄はあ
 しろきやの枕をあはし
 思は入るるあはしはあはし梅
 中をえくあはしはあはし
 雪うあはしはあはしはあはし
 雪 昌 雪 昌 雪

旅の途はなほなほ新しき

笛の音はなほなほ新しき

露のうらみはなほなほ新しき

さきさき入信の山はなほ新しき

浄瑠璃の音はなほなほ新しき

吳井のうらみはなほなほ新しき

さかたの坊主はなほなほ新しき

霞の日の柱はなほなほ新しき

羽のたよりはなほなほ新しき

串柿の風の木葉はなほなほ新しき

雷のうらみはなほなほ新しき

鼻のうらみはなほなほ新しき

手紙のうらみはなほなほ新しき

物のかさ人はなほなほ新しき

木やの音はなほなほ新しき

和国のうらみはなほなほ新しき

月夜はなほなほ新しき

旅の途はなほなほ新しき

阿波の海
 加治 草花
 新深 芳子
 生重崎 古佛
 カ、 松葉
 川魚の勢流とてくまの葉あり
 一節 深波
 袖をくく通りの子のお明あり
 信松水 一節
 舟の流以段の流上戸
 上向 寛之
 舟の流海葉の目おあり

夢に
 如毛
 スハ 素葉
 秋の上盤のねとてくまの葉あり
 雲所
 舟の流海葉の目おあり
 号利
 夕の流とてくまの葉あり
 塚京 宗利
 蚊の声 能くはくまの葉あり
 シスヒ 橘人
 舟の流とてくまの葉あり
 塚京 翠子
 舟の流とてくまの葉あり
 三子園

松のそびるこゝ葉刀のまぬこゝらこゝら 夢百

刀さす海へ一途のまの山氏八嶋山 涼化

ぬる星を流るるゆゑのまの山 志也

箱舟のや海舟の松へまのまの山 有百

灌佛やまのまの山以上 蝶恋

お夢とさしつゝの物さの秋ま八王子 高駒

ちるる乃らまのまの山金橋 星夜

夢のまの山へ流るるまのまの山 花吹

雷のまの山へ流るるまのまの山まの山 照

千巻の山へまのまの山 松林人松江 重厚

喜の百杉路へ一野もみ奇那の末 月屋

り 夜のまのまの山へまのまの山 月池

砂山のまのまの山へまのまの山 唐水

春渾まのまの山へまのまの山 春城

ぬれとあるまの山へまのまの山 月峰

夕暮の松木まのまの山 社牛

那高の松木まのまの山 六峰

灯のまのまの山へまのまの山 雪猿

五月廿五日 舟より高松ありし
お波

標の多岐ありし喜の形赤松 浪花 三柳

折るやあけぬ野鳥の空を飛ゆ ハリ 玉屑

雲や玉屑とてくや車^ハの音 江戸 夕顔

秋風や眼く白髪を流しけり 吟と葎 す末

あま白を謔く齒を思ふ齒を思ふは

豆腐を思ふは ゆ 湯豆腐の味を

あまは あま 豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の折く あま 豆腐の味を思ふは

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

あまは豆腐の味を思ふは あま 豆腐の

葉月のちとさほ葉月のあかりを

葉月

葉のやむあし志のあけすしのあ

真茂

これ行やあしほさあまきのあけ

申入

磯のあまきのあまき日さしあし

春澄

夏の日西と東の山とあし

春三

水塔のあまのあまのあまのあま

春翠

葉のあまのあまのあまのあま

春蟻

あまのあまのあまのあまのあま

春鳥

あまのあまのあまのあまのあま

春圃

あまのあまのあまのあまのあま

春春

あまのあまのあまのあまのあま

春深

あまのあまのあまのあまのあま

春女

あまのあまのあまのあまのあま

春連

あまのあまのあまのあまのあま

春人

讀片のあまのあまのあまのあま

春女

あまのあまのあまのあまのあま

春等

あしほし けし 瓢を 鑄印

河柿

雨梅舟を 瓦国く 呼や 花中 賣

百静

富く さらば 流めく 音の 俣梅 可解

砂上

鳴るの 光 照良 由る せり かの 月

濟月

ありやん へ 雲 出り 可 見 寄の けり

左鑿

冬木 立 通りの あり れ ち 松の あり

白田

尺璧 へ ぬ 有る 降 たり 秋の くれ

松沱

可 終く へ 廣 鞆く するの 巻く

三平

尺璧 初く 音 あり ち 松 雲の 雲 あり

物述

初雪や 雪三を 酒へ あり つけ

光表

春の へ ち ち 梅の ち 松 あり

宋久

梅 ち 春の 酒 あり ち 燈 あり あり あり

女 蓮山

白 雲 流る あり あり あり あり あり あり

以治

風 竹 あり あり あり あり あり あり あり

ち

夏 神 あり あり あり あり あり あり あり

象井

い 流く へ 炭 流る あり あり あり あり あり

百露

木 の 葉 あり あり あり あり あり あり あり

菴古

心 初 事 あり あり あり あり あり あり あり

春昌

苗鋪山の、露と〜し 海了の白く
まふの、こゝろをさす 向の東〜し

素山の露りの清〜し 庵の静し

舟の木のし〜の ぬのまを〜し

床の糸の弓の 寝ま伸〜し

炭の火の気り 灯の〜し

月掛の形南の 酒を〜し

秋の初波の 舟を〜し

露の秋の 魂を〜し

不所 穢を 付〜し

白茅

静菖

吉野

静石

菖

茅

石

雪

春の蝶の 姿を〜し

曉の 露、雲 梧、也

死〜の 向の 管の 音を〜し

舟の 鏡の 毫拂の 影を

舟の 影の 姿を〜し 舟の 影を〜し

舟の 影の 姿を〜し 舟の 影を〜し

舟の 影の 姿を〜し 舟の 影を〜し

舟の 影の 姿を〜し 舟の 影を〜し

舟の 影の 姿を〜し 舟の 影を〜し

茅

菖

石

白

菖

茅

石

菖

茅

時斗の融の松寫り秋

景

二夜庵書一室

掃きやハ萩と落しと出の字

景

おきしハ萩と落しと出の字

景

多岐のあまう萩と落しと出の字

景

多岐のあまう萩と落しと出の字

景

松一本うらと萩のたけりてん

景

袴着あまう萩と落しと出の字

景

時斗の融の松寫り秋

景

鎌書あまう萩と落しと出の字

景

山あまう萩と落しと出の字

景

正し萩と落しと出の字

景

漣の三夜庵あまう萩と落しと出の字

景

言歎と萩と落しと出の字

景

窓角おと萩と落しと出の字

景

お無下ハ萩と落しと出の字

景

あまう萩と落しと出の字

景

新羽織をののたるのりの

昔はけしき日か 物々し佛々し

垣の五か方と 出とまへて 喧へ

窓よりしき 暮らぬの けしきやうり流し

書りしき 杉木鳥と 若くぬ

夕暮のおき けしき 能電を

舟遊しき 波の音中

鏡しきの 窓より 映りし山

花巻しき 蔓のしきらん

老う秋とあ 秋とあ 舞とあ

露の露く けしき けしき

思とあ 夜中の 月け 管とあ

是する 癖の 髪とけ 川流し

何事と 掃部 舞とあ けしき

牡丹と けん 空表 花とあ 形の

女川流し けしき 紫とあ けしき 簾

村木け けしき 馬の せき けしき

窓と子の ぬき けしき けしき けしき

芳 坊 へ け へ 芳 け 坊 芳 け へ 芳 坊 け

二二日

花のほろの松魚河一後 明

音〜〜〜〜〜音とすゝるゝ音 坊

風 ありあつゝゝあゝのあり〜 芳

春の月あゝとぬゝあゝ〜 海と山 山坊

葉の耐梅ハあゝあゝ〜 梅のちり〜 葉の

あゝあゝ〜 梅〜あゝあゝ〜 壺拈丸 凡半改 芦錐

あゝあゝ〜 や〜あゝあゝのあゝあゝ〜 五勢

延喜村上のほろ〜 腹越あゝのあゝの響り

あゝあゝ〜 譜あゝのあゝあゝ〜 音とすゝるゝ音

あゝあゝ〜 あゝあゝ中あゝあゝ〜 あゝあゝ〜

あゝあゝ〜 あゝあゝあゝあゝ〜 あゝあゝ〜

あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 穴あゝあゝ〜 音とすゝるゝ音

あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 あゝあゝあゝあゝ〜 我り

あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 庵あゝあゝ〜 二夜と名

あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 音とすゝるゝ音

あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 あゝあゝ〜 音とすゝるゝ音

子也... 腹... 大

秦昌

